

紛争後の食糧安全保障

— コンゴ民主共和国東部における可能性と挑戦 —

Food Security After Conflict: Prospects and Challenges in Eastern DR Congo

講師 **ヨハン・ポチエ教授**
ロンドン大学東洋アフリカ学院

日時：2008年9月18日（木）15：00～16：30

場所：大阪大学人間科学研究科東館106講義室

参加：無料・事前申込不要（英語講演）

主催：大阪大学グローバルコラボレーションセンター
大阪大学グローバルCOEプログラム
「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」



食糧の安全保障を回復するための、コンゴ民主共和国東部における紛争後の課題は、土地や生活基盤の損失に関連したものである。具体的には以下のような問題がある。かつては生態学的にも調和のとれていた食糧市場の壊滅、軍隊や給与が支払われていない役人によって引き起こされる治安の不安定さ、不法な採掘を阻止し食糧価格の安定をもたらすための、鉱物や食糧品の取引の統制の必要性、基礎的な農業サービスの停止などである。短期的には、食糧の安全保障を損なっている否定的な要因が修正できる可能性はあまりたかくない。コンゴ民主共和国東部は、政治的に不安定であり、多くの住人が強制的な移動を強いられている。安定した地方行政はいまだに確立されていない。

紛争後の状況の複雑性を理解するには、1996年に戦争が起こる以前の社会政治的な現実、とくに土地をめぐる政治学に着目すべきである。この講義で私が論じたいのは、コンゴ民主共和国東部の人びとは、1973年に制定された財産法、すなわち先祖伝来の土地をも含むすべての土地の私有化を認めた法律のゆえに、構造的暴力にさらされているという点である。戦争が終結した今日、政治家や政策担当者は、人びとの生活の基盤を復元し、土地の権利を取り戻すためにも、この法律を見直すべきである。



ヨハン・ポチエ教授 (Professor Johan Pottier)
ロンドン大学東洋アフリカ学院、アフリカ人類学教授。
ルワンダ・コンゴ民主共和国における、農村開発・食糧の安全保障・民族紛争・紛争後の再建を専門としている。近著に *Re-Imagining Rwanda: Conflict, Survival and Disinformation in the Late Twentieth Century*. Cambridge University Press (2002) がある。